

結果の概要

刑務所・拘置所等

1 被収容者

(1) 収容状況

最近10年間の全国の刑務所及び拘置所の1日平均収容人員の推移は、第1表のとおりである。平成5年に増加に転じて以降、年々増加していたが、同20年から連続して減少しており、同29年は前年に比べ2,494人(4.3%)減少した54,876人(男50,255人、女4,620人)となっている。

第1表 1日平均収容人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
総数	78,533	76,019	74,232	71,378	68,565	64,890	61,768	59,670	57,369	54,876
男	73,271	70,794	68,948	66,046	63,238	59,718	56,734	54,689	52,565	50,255
女	5,262	5,224	5,284	5,332	5,327	5,172	5,034	4,981	4,805	4,620
対前年比	-2.7	-3.2	-2.4	-3.8	-3.9	-5.4	-4.8	-3.4	-3.9	-4.3

(注) 刑務所・拘置所等(以下記載を省略)の2表(法務省ホームページにおける統計表番号「17-00-02」)。以下統計表番号のみを記載)参照

平成29年における1日平均収容人員の内訳は、第2表のとおりである。被収容者の種別で見ると、受刑者が48,161人(87.8%)、次いで、被告人が5,782人(10.5%)、労役場留置者が715人(1.3%)の順となっている。

第2表 1日平均収容人員の内訳

区分	総数	受刑者	死刑確定者	被告人	被疑者	労役場留置者	その他
人員	54,876	48,161	126	5,782	88	715	4
(構成比)	(100.0)	(87.8)	(0.2)	(10.5)	(0.2)	(1.3)	(0.0)
対前年比	-4.3	-4.1	-0.8	-5.8	-1.1	-7.6	-

(注) 1表(「17-00-01」)及び2表(「17-00-02」)参照

(2) 年末収容人員

最近10年間の年末における収容人員の推移は、第3表のとおりである。収容率(年末における収容定員に対する年末収容人員の比率)は、平成13年から同18年まで6年連続して100%を超過していたが、同19年から11年連続して収容定員を下回っている。

第3表 年末収容人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
年末収容人員	76,881	75,250	72,975	69,876	67,008	62,971	60,486	58,497	55,967	53,233
収容定員	87,754	90,354	90,182	90,547	90,681	90,536	90,146	89,807	89,395	88,670
収容率	87.6	83.3	80.9	77.2	73.9	69.6	67.1	65.1	62.6	60.0

(注) 3表(「17-00-03」)参照

(3) 入・出所人員

最近10年間の入・出所人員の推移は、第4表のとおりである。刑務所及び拘置所の入所人員は、平成16年以降減少し、同29年は前年に比べ人2,049(5.2%)減少した36,994人(男33,321人、女3,673人)となっている。出所人員も、平成17年以降減少

し、同29年は前年に比べ1,845人(4.4%)減少した39,728人(男35,817人,女3,911人)となっている。

第4表 入・出所人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
入所人員 (指数)	54,923 (100)	53,437 (97)	51,924 (95)	49,109 (89)	46,977 (86)	43,379 (79)	41,838 (76)	41,060 (75)	39,043 (71)	36,994 (67)
出所人員 (指数)	57,851 (100)	55,068 (95)	54,199 (94)	52,208 (90)	49,845 (86)	47,416 (82)	44,323 (77)	43,049 (74)	41,573 (72)	39,728 (69)

(注) 14表(「17-00-14」)参照

(4) 外国人被収容者

最近10年間の年末収容人員のうち、外国人被収容者人員の推移は、第5表のとおりである。平成29年の年末における外国人被収容者人員は、前年に比べ100人(3.3%)減少した2,941人となり、外国人受刑者人員は、107人(4.3%)減少した2,384人となっている。

第5表 年末収容人員のうち外国人被収容者人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
年末収容人員(A)	76,881	75,250	72,975	69,876	67,008	62,971	60,486	58,497	55,967	53,233
うち、外国人被収容者人員(B)	5,353	5,027	4,803	4,433	4,012	3,657	3,445	3,226	3,041	2,941
うち、外国人受刑者人員	4,681	4,371	4,113	3,813	3,368	3,044	2,848	2,670	2,491	2,384
年末収容人員に占める比率 〔(B)/(A)×100〕	7.0	6.7	6.6	6.3	6.0	5.8	5.7	5.5	5.4	5.5

(注) 3表(「17-00-03」)及び8表(「17-00-08」)参照

平成29年の年末在所外国人被収容者の内訳は、第6表のとおりである。

このうち、来日外国人は2,051人であり、外国人被収容者年末収容人員に占める割合は69.7%となっている。

第6表 年末在所外国人被収容者の内訳

区分	総数	受刑者	未決拘禁者	その他
外国人被収容者 年末収容人員	2,941	2,384	499	58
うち、来日外国人	2,051	1,602	399	50

(注) 8表(「17-00-08」)及び9表(「17-00-09」)参照

平成29年の年末在所来日外国人被収容者の国籍は、第7表のとおりである。国籍別の人員総数は、中国が569人(27.7%)と最も多く、次いで、ブラジルが241人(11.8%)、ベトナムが169人(8.2%)、イランが130人(6.3%)の順となっている。

第7表 年末在所来日外国人被収容者の国籍

区分	総数	中国	ブラジル	ベトナム	イラン	韓国・朝鮮	フィリピン	タイ	メキシコ	ペルー	ナイジェリア	アメリカ合衆国	その他
人員総数	2,051	569	241	169	130	102	101	69	63	61	60	59	427
男	1,745	494	226	141	129	89	61	20	46	58	60	50	371
女	306	75	15	28	1	13	40	49	17	3	-	9	56
構成比総	100.0	27.7	11.8	8.2	6.3	5.0	4.9	3.4	3.1	3.0	2.9	2.9	20.8
男	100.0	28.3	13.0	8.1	7.4	5.1	3.5	1.1	2.6	3.3	3.4	2.9	21.3
女	100.0	24.5	4.9	9.2	0.3	4.2	13.1	16.0	5.6	1.0	-	2.9	18.3

(注) 9表(「17-00-09」)参照

2 新受刑者

(1) 新受刑者の収容状況

最近10年間の新受刑者人員の推移は、第8表のとおりである。新受刑者人員の総数は平成4年から同18年まで15年連続して増加していたが、平成19年から11年連続して減少しており、同29年は前年と比べ1,131人（5.5%）減少した19,336人（男17,444人、女1,892人）となっている。

第8表 新受刑者人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
人員数	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539	20,467	19,336
男	26,768	26,123	24,873	23,273	22,555	20,643	19,744	19,415	18,462	17,444
女	2,195	2,170	2,206	2,226	2,225	2,112	2,122	2,124	2,005	1,892
指数	100	98	93	88	86	79	75	74	71	67
男	100	98	93	87	84	77	74	73	69	65
女	100	99	101	101	101	96	97	97	91	86

(注) 18表（「17-00-18」）参照

(2) 新受刑者の年齢

平成29年における新受刑者の年齢別人員は、第9表のとおりである。これを総数の構成比で見ると、40～44歳が13.9%（2,679人）と最も高く、次いで45～49歳が13.7%（2,641人）、35～39歳が11.9%（2,294人）の順となっている。

第9表 新受刑者の年齢別人員

区分	総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
人員数	19,336	19	1,059	1,630	2,042	2,294	2,679	2,641	1,996	1,487	1,211	1,136	1,142
男	17,444	19	1,019	1,515	1,844	2,067	2,392	2,389	1,812	1,388	1,094	997	908
女	1,892	0	40	115	198	227	287	252	184	99	117	139	234
構成比	100.0	0.1	5.5	8.4	10.6	11.9	13.9	13.7	10.3	7.7	6.3	5.9	5.9
男	100.0	0.1	5.8	8.7	10.6	11.8	13.7	13.7	10.4	8.0	6.3	5.7	5.2
女	100.0	-	2.1	6.1	10.5	12.0	15.2	13.3	9.7	5.2	6.2	7.3	12.4
前年比	-5.5	-36.7	-3.3	-6.6	-8.4	-7.7	-7.6	-2.0	-2.6	0.1	-3.3	-12.7	-4.6
男	-5.5	-32.1	-1.3	-5.8	-10.2	-7.6	-7.0	-1.5	-3.5	2.7	-4.3	-14.3	-6.5
女	-5.6	-100.0	-36.5	-16.1	11.9	-8.5	-12.5	-6.7	6.4	-26.7	7.3	1.5	3.5

(注) 22表（「17-00-22」）参照

また、最近10年間の新受刑者のうち60歳以上人員の推移は、第10表のとおりである。平成29年における新受刑者のうち60歳以上人員の総数は、前年と比べ261人（7.0%）減少した3,489人（男2,999人、女490人）となっている。

第10表 新受刑者のうち60歳以上人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
人員数	4,017	4,056	4,093	4,069	4,127	3,962	3,771	3,689	3,750	3,489
男	3,670	3,673	3,699	3,639	3,681	3,507	3,314	3,250	3,278	2,999
女	347	383	394	430	446	455	457	439	472	490
構成比	13.9	14.3	15.1	16.0	16.7	17.4	17.2	17.1	18.3	18.0
男	13.7	14.1	14.9	15.6	16.3	17.0	16.8	16.7	17.8	17.2
女	15.8	17.6	17.9	19.3	20.0	21.5	21.5	20.7	23.5	25.9

(注) 22表（「17-00-22」）参照

(3) 新受刑者の罪名

平成29年における新受刑者の罪名別人員は、第11表のとおりである。これを、罪名別の総数の構成比で見ると、窃盗が33.6%（6,502人）と最も高く、次いで、覚せい剤取締法違反が27.7%（5,355人）、詐欺が10.0%（1,925人）、傷害が4.6%（884人）、道路交通法違反が4.6%（882人）、強制わいせつ・強制性交等が2.5%（476人）の順となっている。

第11表 新受刑者の罪名別人員

区分	分	総数		男		女	
		総数	構成比	構成比	構成比	構成比	
総	数	19,336	100.0	17,444	100.0	1,892	100.0
刑	犯	12,184	63.0	11,057	63.4	1,127	59.6
放	火	103	0.5	89	0.5	14	0.7
文	偽	78	0.4	70	0.4	8	0.4
強	造	476	2.5	474	2.7	2	0.1
制	強	16	0.1	15	0.1	1	0.1
わ	制	176	0.9	153	0.9	23	1.2
い	性	884	4.6	853	4.9	31	1.6
せ	交	56	0.3	55	0.3	1	0.1
つ	等	256	1.3	242	1.4	14	0.7
・	強	6,502	33.6	5,623	32.2	879	46.5
強	制	412	2.1	405	2.3	7	0.4
制	強	1,925	10.0	1,814	10.4	111	5.9
博	強	139	0.7	137	0.8	2	0.1
・	強	224	1.2	206	1.2	18	1.0
富	制	165	0.9	164	0.9	1	0.1
く	等	772	4.0	757	4.3	15	0.8
人	強						
害	制	884	4.6	853	4.9	31	1.6
危	強	56	0.3	55	0.3	1	0.1
険	制	256	1.3	242	1.4	14	0.7
運	強	6,502	33.6	5,623	32.2	879	46.5
過	制	412	2.1	405	2.3	7	0.4
失	強	1,925	10.0	1,814	10.4	111	5.9
強	強	139	0.7	137	0.8	2	0.1
詐	強	224	1.2	206	1.2	18	1.0
恐	強	165	0.9	164	0.9	1	0.1
横	強	772	4.0	757	4.3	15	0.8
暴	強						
そ	強	772	4.0	757	4.3	15	0.8
特	強						
別	強	7,152	37.0	6,387	36.6	765	40.4
銃	強	68	0.4	68	0.4	-	-
砲	強	15	0.1	12	0.1	3	0.2
刀	強	36	0.2	32	0.2	4	0.2
剣	強	5,355	27.7	4,661	26.7	694	36.7
類	強	882	4.6	848	4.9	34	1.8
所	強	17	0.1	14	0.1	3	0.2
持	強	779	4.0	752	4.3	27	1.4
等	強						
取	強						
締	強						
法	強						
違	強						
反	強						
の	強						
順	強						
で	強						
見	強						
ら	強						
と	強						
な	強						
ら	強						
る	強						
。	強						

(注) 1 「強制わいせつ・強制性交等」にはそれぞれの致死傷を、「傷害」には傷害致死及び暴行を、「過失運転致死傷」には業務上過失致死傷及び重過失致死傷を、「強盗」には強盗致死傷及び強盗・強制性交等及び同致死を含む。
2 18表(「17-00-18」)参照

さらに、男女別に上位5位までの罪名で見ると、男は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、傷害、道路交通法違反の順で、女は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、道路交通法違反、傷害の順となっている。女の場合、窃盗及び覚せい剤取締法違反の構成比が80%以上を占めている点が大きな特徴である。

なお、最近10年間の新受刑者のうち、覚せい剤取締法違反の人員の推移は、第12表のとおりである。平成29年における覚せい剤取締法違反の人員総数は前年と比べ225人（4.0%）減少した5,355人（男4,661人、女694人）となっている。

第12表 新受刑者のうち覚せい剤取締法違反の人員の推移

区分	分	平成20年									
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
人	数	6,233	6,086	6,569	6,570	6,453	5,990	6,016	5,991	5,580	5,355
男		5,460	5,297	5,708	5,687	5,594	5,182	5,206	5,162	4,842	4,661
女		773	789	861	883	859	808	810	829	738	694
構	成	21.5	21.5	24.3	25.8	26.0	26.3	27.5	27.8	27.3	27.7
男		20.4	20.3	22.9	24.4	24.8	25.1	26.4	26.6	26.2	26.7
女		35.2	36.4	39.0	39.7	38.6	38.3	38.2	39.0	36.8	36.7

(注) 18表(「17-00-18」)参照

(4) 新受刑者の刑名・刑期

平成29年における新受刑者の刑名別人員は、第13表のとおりである。

第13表 新受刑者の刑名別人員

区	分	総	数	懲	役	禁	錮	拘	留	死	刑
人	員		19,336	19,265	65				2	4	
(構	成	(100.0)	(99.6)	(0.3)				(0.0)	(0.0)	
)											

(注) 19表(「17-00-19」)参照

このうち、懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員は、第14表のとおりである。懲役受刑者の刑期別人員は、2年以下が7,027人(36.5%)と最も多く、次いで、3年以下が4,950人(25.7%)、1年以下が3,734人(19.4%)となっている。禁錮受刑者については、2年以下が28人(43.1%)と最も多い。

第14表 新受刑者のうち懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員

区	分	総	数	1年	2年	3年	5年	5年	無	期
懲	員		19,265	3,734	7,027	4,950	2,591	945	18	
人	(構	(100.0)	(19.4)	(36.5)	(25.7)	(13.4)	(4.9)	(0.1)	
)										
禁	員		65	10	28	20	7	-	-	
人	(構	(100.0)	(15.4)	(43.1)	(30.8)	(10.8)	(-)	(-)	
)										

(注) 19表(「17-00-19」)参照

(5) 新受刑者の入所度数

平成29年における新受刑者の入所度数別人員は、第15表のとおりである。

第15表 新受刑者の入所度数別人員

区	分	総	数	初	度	2	度	3	度	4	度	5	度	6	度	以上
人	員		19,336	7,860	3,261	2,278	1,599	1,198	3,140							
(構	成	(100.0)	(40.6)	(16.9)	(11.8)	(8.3)	(6.2)	(16.2)							
)																
対	前	年	-5.5	-5.2	-6.2	-6.9	-10.3	-4.8	-2.3							
比																

(注) 23表(「17-00-23」)参照

次に、最近10年間の新受刑者のうち、初入者及び再入者人員の推移は、第16表のとおりである。初入者は、平成5年以降増加傾向を示していたが、同17年から減少し始めた。また、平成18年から12年連続して再入者が初入者を上回っている。

第16表 新受刑者のうち初入者・再入者人員の推移

区	分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
総	数	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539	20,467	19,336
初	入	13,347	12,775	11,874	10,865	10,275	9,348	8,892	8,735	8,288	7,860
(構	(46.1)	(45.2)	(43.8)	(42.6)	(41.5)	(41.1)	(40.7)	(40.6)	(40.5)	(40.6)
)											
再	入	15,616	15,518	15,205	14,634	14,505	13,407	12,974	12,804	12,179	11,476
(構	(53.9)	(54.8)	(56.2)	(57.4)	(58.5)	(58.9)	(59.3)	(59.4)	(59.5)	(59.4)
)											

(注) 23表(「17-00-23」)参照

(6) 新受刑者のうち初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴

平成29年の新受刑者のうち、初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員は、第17表のとおりである。保護処分歴を有する者は1,288人（16.4%）、刑の執行猶予歴を有する者は5,231人（66.6%）となっている。

第17表 初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員

区分	総数	保護処分歴				刑の執行猶予歴		
		あり	少年院送致	児童自立支援施設・児童養護施設送致	保護観察なし	あり	なし	なし
人員	7,860	1,288	717	30	541	6,572	5,231	2,629
(構成比)	(100.0)	(16.4)	(9.1)	(0.4)	(6.9)	(83.6)	(66.6)	(33.4)

(注) 30表(「17-00-30」)参照

(7) 新受刑者のうち暴力団加入者人員

最近10年間の新受刑者のうち、暴力団加入者人員の推移は、第18表のとおりである。平成29年は前年に比べ192人減少した1,194人となっており、新受刑者に占める構成比も0.6ポイント下降した6.2%となっている。

第18表 新受刑者のうち暴力団加入者人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	28
総数	28,963	28,293	27,079	25,499	24,780	22,755	21,866	21,539	20,467	19,336
人員	3,265	2,960	2,592	2,359	2,094	1,889	1,751	1,439	1,386	1,194
(構成比)	(11.3)	(10.5)	(9.6)	(9.3)	(8.5)	(8.3)	(8.0)	(6.7)	(6.8)	(6.2)

(注) 46表(「17-00-46」)参照

3 再入受刑者

(1) 再入受刑者の再犯期間

最近10年間の再入受刑者（前刑出所前の犯罪により再入所した者を除く。）の再犯期間（前回の刑の執行を受けて出所した日から再入に係る罪を犯した日までの期間）別人員の推移は、第19表のとおりである。平成29年は1年未満が4,228人（37.3%）と最も多く、次いで、2年未満が2,357人（20.8%）、5年以上が1,641人（14.5%）の順となっている。

第19表 再入受刑者の再犯期間別人員の推移

区分	総数	再犯期間						
		1年未満		2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	5年以上
		人員	うち、3月未満	人員	人員	人員	人員	人員
平成20年	15,443	6,313 (40.9)	1,943 (12.6)	3,245 (21.0)	1,864 (12.1)	1,117 (7.2)	764 (4.9)	2,140 (13.9)
21	15,355	6,289 (41.0)	1,951 (12.7)	3,293 (21.4)	1,820 (11.9)	1,084 (7.1)	779 (5.1)	2,090 (13.6)
22	15,034	5,877 (39.1)	1,813 (12.1)	3,265 (21.7)	1,900 (12.6)	1,123 (7.5)	786 (5.2)	2,083 (13.9)
23	14,464	5,719 (39.5)	1,722 (11.9)	3,076 (21.3)	1,871 (12.9)	1,124 (7.8)	735 (5.1)	1,939 (13.4)
24	14,296	5,618 (39.3)	1,708 (11.9)	2,954 (20.7)	1,776 (12.4)	1,154 (8.1)	799 (5.6)	1,995 (14.0)
25	13,233	5,177 (39.1)	1,457 (11.0)	2,804 (21.2)	1,647 (12.4)	1,007 (7.6)	742 (5.6)	1,856 (14.0)
26	12,833	4,827 (37.6)	1,377 (10.7)	2,806 (21.9)	1,604 (12.5)	962 (7.5)	774 (6.0)	1,860 (14.5)
27	12,626	4,733 (37.5)	1,334 (10.6)	2,663 (21.1)	1,577 (12.5)	1,034 (8.2)	784 (6.2)	1,835 (14.5)
28	12,018	4,465 (37.2)	1,302 (10.8)	2,492 (20.7)	1,598 (13.3)	998 (8.3)	764 (6.4)	1,701 (14.2)
29	11,325	4,228 (37.3)	1,228 (10.8)	2,357 (20.8)	1,425 (12.6)	952 (8.4)	722 (6.4)	1,641 (14.5)

(注) 54表(「17-00-54」)参照

(2) 再入状況

平成24年の出所受刑者27,463人（国際受刑者移送法により送出移送した者を除く。）について、同29年末までの再入状況は、第20表のとおりである。平成29年までの6年以内に再入所した者は、計11,254人（41.0%）となっている。また、満期釈放と仮釈放の別に6年以内再入者を比較すると、満期釈放は6,607人（51.8%）、仮釈放は4,647人（31.6%）となっている。

第20表 平成24年出所受刑者の平成29年末までの再入状況

出所事由	平成24年出所受刑者	再入年別人員及び構成比							計
		平成24年 人員 (構成比)	25 人員 (構成比)	26 人員 (構成比)	27 人員 (構成比)	28 人員 (構成比)	29 人員 (構成比)	人員 (構成比)	
総数	27,463	1,316 (4.8)	3,784 (13.8)	2,690 (9.8)	1,673 (6.1)	1,056 (3.8)	735 (2.7)	11,254 (41.0)	
満期釈放	12,763	1,107 (8.7)	2,380 (18.6)	1,444 (11.3)	832 (6.5)	512 (4.0)	332 (2.6)	6,607 (51.8)	
仮釈放	14,700	209 (1.4)	1,404 (9.6)	1,246 (8.5)	841 (5.7)	544 (3.7)	403 (2.7)	4,647 (31.6)	

(注) 63表(「17-00-63」)及び64表(「17-00-64」)参照

(3) 出所後6年以内に再入所した者の推移

出所後6年以内に再入所した者（出所受刑者のうち、国際受刑者移送法により送出移送した者を除く。）の推移は、第21表のとおりである。再入率については平成23年のみ上昇したものの、平成24年は再び低下している。

第21表 出所後6年以内に再入所した者の推移

区分	出所年									
	平成15年	16	17	18	19	20	21	22	23	24
出所受刑者	28,170	29,526	30,025	30,584	31,297	31,632	30,178	29,446	28,558	27,463
(うち、再入人員)	(12,751)	(13,143)	(13,266)	(13,305)	(13,387)	(13,365)	(12,659)	(12,079)	(11,819)	(11,254)
再入率	45.3	44.5	44.2	43.5	42.8	42.3	41.9	41.0	41.4	41.0

(注) 63表(「17-00-63」)及び64表(「17-00-64」)参照

4 出所受刑者

(1) 出所受刑者の人員及び出所事由

最近10年間の出所受刑者の出所事由別人員の推移は、第22表のとおりである。平成29年における出所受刑者人員の総数は22,025人であり、前年に比べ922人(4.0%)減少している。これを男女別に見ると、男が19,824人(90.0%)、女が2,201人(10.0%)となっている。さらに、出所事由別に見ると、満期釈放が9,159人(41.6%)、実刑期終了(一部猶予あり)が79人(0.4%)、仮釈放(一部猶予なし)が12,477人(56.6%)、仮釈放(一部猶予あり)が283人(1.3%)、国際受刑者移送法による送受刑者が27人(0.1%)となっている。

第22表 出所受刑者の出所事由別人員の推移

区分	平成20年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
人員										
総	31,680	30,213	29,461	28,583	27,485	26,535	24,684	23,566	22,947	22,025
男	29,431	28,029	27,294	26,308	25,188	24,186	22,459	21,293	20,738	19,824
女	2,249	2,184	2,167	2,275	2,297	2,349	2,225	2,273	2,209	2,201
指数										
総	100	95	93	90	87	84	78	74	72	70
男	100	95	93	89	86	82	76	72	70	67
女	100	97	96	101	102	104	99	101	98	98
出所事由別										
満期釈放	15,792	15,324	14,975	13,938	12,763	11,887	10,726	9,953	9,649	9,159
(構成比)	(49.8)	(50.7)	(50.8)	(48.8)	(46.4)	(44.8)	(43.5)	(42.2)	(42.0)	(41.6)
実刑期終了	-	-	-	-	-	-	-	-	-	79
(一部猶予あり)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(0.4)
(構成比)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(0.4)
仮釈放	15,840	14,854	14,471	14,620	14,700	14,623	13,925	13,570	13,260	12,477
(一部猶予なし)	(50.0)	(49.2)	(49.1)	(51.1)	(53.5)	(55.1)	(56.4)	(57.6)	(57.8)	(56.6)
(構成比)	(50.0)	(49.2)	(49.1)	(51.1)	(53.5)	(55.1)	(56.4)	(57.6)	(57.8)	(56.6)
仮釈放	-	-	-	-	-	-	-	-	-	283
(一部猶予あり)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1.3)
(構成比)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1.3)
送受刑者等	48	35	15	25	22	25	33	43	38	27
(構成比)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.2)	(0.2)	(0.1)

(注) 67表(「17-00-67」)参照

(2) 出所受刑者のうち仮釈放者の刑の執行状況

ア 有期懲役受刑者

平成29年における有期懲役受刑者のうち仮釈放者12,619人(仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、更に仮釈放を許された者を除く。)についての刑の執行率は、第23表のとおりである。刑の執行率80~89%が5,689人(45.1%)と最も多く、次いで、90%以上が4,530人(35.9%)となっている。

第23表 有期懲役受刑者のうち仮釈放者の刑の執行率

区分	総数	刑の執行率				
		59%以下	60~69%	70~79%	80~89%	90%以上
人員	12,566	2	169	2,228	5,656	4,511
(構成比)	(100.0)	(0.0)	(1.3)	(17.7)	(45.0)	(35.9)
対前年比	-3.4	0.0	-1.7	-3.1	-8.8	4.2

(注) 70表(「17-00-70」)参照

有期懲役受刑者の仮釈放者のうち、刑の執行率80%以上の者についての刑期別人員は、第24表のとおりである。総数では12,566人(80.9%)、刑期1年以下では926人(89.5%)、2年以下では3,514人(77.0%)、3年以下では3,075人(78.9%)となっており、平成28年の総数10,531人(81.0%)と比べて執行率の高い者の割合が

僅かに減少している。

第24表 有期懲役受刑者の仮釈放者のうち刑の執行率80%以上の刑期別人員

区 分	総 数	刑 期				
		1年以下	2年以下	3年以下	5年以下	5年を超える
有期懲役仮釈放者	12,566	1,035	4,563	3,898	2,130	940
うち、刑の執行率 80%以上の人員	10,167	926	3,514	3,075	1,779	873
有期懲役仮釈放者 に占める比率	80.9	89.5	77.0	78.9	83.5	92.9

(注) 70表(「17-00-70」)参照

イ 無期懲役受刑者

平成29年における無期懲役受刑者のうち仮釈放者(無期刑の仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、更に仮釈放を許された者3人を除く。)8人について、その受刑在所期間は、第25表のとおりである。仮釈放者の平均受刑在所期間は約398月(33年2月)である。

第25表 無期懲役受刑者のうち仮釈放者の受刑在所期間

区 分	総 数	14年以下	15年以下	16年以下	17年以下	18年以下	19年以下	20年以下	20年を超える
人 員	8	-	-	-	-	-	-	-	8
(構成比)	(100.0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(100.0)

(注) 69表(「17-00-69」)参照

(3) 出所受刑者の刑務作業及び職業訓練など

平成29年における出所受刑者について、その在所時の刑務作業の業種別就業人員は、第26表のとおりである。業種別に見ると、経理作業(刑務所などの自主運営に必要な作業で、炊事、清掃、介助などの作業)が4,425人(20.1%)と最も多く、次いで、織物製品製造が2,891人(13.1%)、化学製品製造が2,341人(10.6%)、紙細工が2,152人(9.8%)の順となっている。

第26表 出所受刑者の刑務作業の業種別就業人員

業 種	人 員	構成比	人員の対前年比
総 数	22,025	100.0	-4.0
経 理 作 業	4,425	20.1	-5.2
織 物 製 品 製 造	2,891	13.1	1.5
化 学 製 品 製 造	2,341	10.6	5.2
紙 細 工	2,152	9.8	8.1
紙 ・ 紙 製 品 製 造	1,994	9.1	-17.8
金属加工・機械組立修理	1,521	6.9	-14.8
木 工	856	3.9	-10.2
ゴム・可塑物製品製造	542	2.5	14.8
そ の 他 の 技 能 工	456	2.1	28.5
金 属 材 料 製 造	394	1.8	34.5
電 気 器 具 組 立 修 理	341	1.5	-5.3
印 刷 ・ 製 本	309	1.4	-18.7
皮 革 ・ 皮 革 製 品 製 造	288	1.3	-9.1
飲 食 料 品 製 造	191	0.9	-14.0
農 耕 ・ 牧 畜	137	0.6	5.4
サ ー ビ ス	71	0.3	1.4
建 設 作 業	57	0.3	-10.9
単 純 労 働 作 業	52	0.2	85.7
そ の 他	2,988	13.6	-10.7
不 就 業	19	0.1	26.7

(注) 72表(「17-00-72」)参照

平成29年における出所受刑者の職業訓練種目別人員は、第27表のとおりである。総数3,965人（出所受刑者総数の18.0%）の、職業訓練修了者の受講種目の主な内訳を見ると、フォークリフト運転が409人（10.3%）と最も多く、次いで、情報処理が270人（6.8%）、溶接が257人（6.5%）、ビル設備管理が225人（5.7%）、販売サービスが154人（3.9%）の順となっている。

第27表 出所受刑者の職業訓練種目別人員

業種	人員	構成比
総数	3,965	100.0
フォークリフト運転	409	10.3
情報処理	270	6.8
溶接	257	6.5
ビル設備管理	225	5.7
販売サービス	154	3.9
小型建設機械	135	3.4
ホームヘルパ	122	3.1
CAD利用技術	116	2.9
ビルハウスクリーニング	94	2.4
農業園芸	80	2.0
建設機械塗装	73	1.8
建築装飾	53	1.3
内装工事	50	1.3
自動車整備	50	1.3
電気通信設備	45	1.1
その他	38	1.0
未修了者	1,530	38.6
	264	6.7

(注) 73表(「17-00-73」)参照

平成29年における出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員は、第28表のとおりである。総数2,431人（出所受刑者総数の11.0%）の資格・免許の主な内訳を見ると、フォークリフト運転者が404人（16.6%）と最も多く、次いで、溶接技能者が223人（9.2%）、技能検定・技能照査が191人（7.9%）、ボイラー技士が183人（7.5%）、危険物取扱者が163人（6.7%）の順となっている。

第28表 出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員

種類	人員	構成比
総数	2,431	100.0
フォークリフト運転者	404	16.6
溶接技能者	223	9.2
技能検定・技能照査	191	7.9
ボイラー技士	183	7.5
危険物取扱者	163	6.7
車両系建設機械運転技能者	145	6.0
技能講習	134	5.5
パソコン検定	109	4.5
CAD利用技術者	106	4.4
ホームヘルパ	75	3.1
プロシテック	50	2.1
情報処理技術者	38	1.6
理容師	37	1.5
クリーニング師	32	1.3
自動車整備士	31	1.3
玉掛け技能者	31	1.3
クレーン運転士	26	1.1
電気工事士	26	1.1
その他	427	17.6

(注) 74表(「17-00-74」)参照

(4) 出所受刑者の帰住先

平成29年における出所受刑者（満期釈放者及び仮釈放者）の出所事由別の帰住先は、第29表のとおりである。総数で見ると、親族のもとが10,150人（46.1%）と最も多く、次いで、更生保護施設等が4,519人（20.5%）、知人のもとが1,705人（7.8%）の順となっている。出所事由別で見ると、満期釈放（実刑期終了（一部猶予あり）を含む。）では、親族のもとが2,859人（30.9%）と最も多く、次いで、知人のもとが771人（8.3%）となっている。仮釈放では、親族のもとが7,291人（57.1%）、次いで、更生保護施設等が3,977人（31.3%）の順となっている。

第29表 出所受刑者の出所事由別の帰住先

帰住先	総数		満期釈放		仮釈放	
	人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)
総数	21,998	(100.0)	9,238	(100.0)	12,760	(100.0)
親族のもと	10,150	(46.1)	2,859	(30.9)	7,291	(57.1)
父,母のもと	6,244	(28.4)	1,565	(16.9)	4,679	(36.7)
配偶者のもと	2,018	(9.2)	634	(6.9)	1,384	(10.8)
兄弟,姉妹のもと	1,057	(4.8)	373	(4.0)	684	(5.4)
その他の親族のもと	831	(3.8)	287	(3.1)	544	(4.3)
知人のもと	1,705	(7.8)	771	(8.3)	934	(7.3)
雇主のもと	345	(1.6)	166	(1.8)	179	(1.4)
社会福祉施設	541	(2.5)	471	(5.1)	70	(0.5)
更生保護施設等	4,519	(20.5)	522	(5.7)	3,997	(31.3)
上記に含まれない自宅	557	(2.5)	549	(5.9)	8	(0.1)
その他	4,181	(19.0)	3,900	(42.2)	281	(2.2)

(注) 1 「満期釈放」は実刑期終了（一部猶予あり）を含み、「仮釈放」は、仮釈放（一部猶予あり）を含む。
 2 84表（「17-00-84」）参照

(5) 出所受刑者の懲罰回数

平成29年における出所受刑者の初入・再入別懲罰回数は、第30表のとおりである。在所時に懲罰を受けた者は10,752人（出所受刑者総数の48.8%）となっている。初入・再入別で見ると、初入で懲罰を受けた者は3,992人（出所受刑者のうち初入者総数の44.7%）であり、再入で懲罰を受けた者は6,760人（出所受刑者のうち再入者総数の51.6%）となっている。

第30表 出所受刑者の初入・再入別懲罰回数

区分	総数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	なし
総数	22,025	4,335	1,960	1,035	665	520	2,237	11,273
(構成比)	(100)	(19.7)	(8.9)	(4.7)	(3.0)	(2.4)	(10.2)	(51.2)
初入	8,927	1,800	773	365	235	178	641	4,935
(構成比)	(100)	(20.2)	(8.7)	(4.1)	(2.6)	(2.0)	(7.2)	(55.3)
再入	13,098	2,535	1,187	670	430	342	1,596	6,338
(構成比)	(100)	(19.4)	(9.1)	(5.1)	(3.3)	(2.6)	(12.2)	(48.4)

(注) 79表（「17-00-79」）参照

5 休養患者 - 被収容者のり病状況

平成29年における休養患者（医師の診断を受けた者のうち、医療上の必要により病室又はこれに代わる室に収容されて治療を受けた者）の人員は、既決拘禁者（受刑者、死刑確定者及び労役場留置者）が11,931人（男10,776人、女1,155人）、未決拘禁者（被告人、被疑者など）が461人（男418人、女43人）である。

このうち、既決拘禁者についての主要病名別転帰事由別人員は、第31表のとおりである。病名別で見ると、呼吸器系の疾患が4,525人（37.9%）と最も多く、次いで、筋骨格系・結合組織の疾患が1,565人（13.1%）、消化器系の疾患が1,111人（9.3%）の順となっている。また、総数を転帰事由別に見ると、治癒又は軽快が10,802人（90.5%）、後遺が335人（2.8%）の順となっている。

なお、休養患者の平均り病日数は、既決拘禁者が68日、未決拘禁者が321日となっている。

第31表 休養患者の主要病名別転帰事由別人員（既決拘禁者）

病名	総数	構成比	総数	転 帰 事 由				
				治癒又は軽快	死亡	未治出所	後遺	その他
総数	11,931	100.0	11,931	10,802	228	286	335	280
			(100.0)	(90.5)	(1.9)	(2.4)	(2.8)	(2.3)
感染症・寄生虫症	316	2.6	316	275	1	17	7	16
			(100.0)	(87.0)	(0.3)	(5.4)	(2.2)	(5.1)
新生物	576	4.8	576	324	91	32	27	102
			(100.0)	(56.3)	(15.8)	(5.6)	(4.7)	(17.7)
内分泌、栄養・代謝疾患	292	2.4	292	252	3	12	10	15
			(100.0)	(86.3)	(1.0)	(4.1)	(3.4)	(5.1)
精神・行動の障害	731	6.1	731	535	10	70	91	25
			(100.0)	(73.2)	(1.4)	(9.6)	(12.4)	(3.4)
神経系の疾患	197	1.7	197	167	5	9	9	7
			(100.0)	(84.8)	(2.5)	(4.6)	(4.6)	(3.6)
循環器系の疾患	551	4.6	551	402	42	31	37	39
			(100.0)	(73.0)	(7.6)	(5.6)	(6.7)	(7.1)
呼吸器系の疾患	4,525	37.9	4,525	4,433	28	24	31	9
			(100.0)	(98.0)	(0.6)	(0.5)	(0.7)	(0.2)
消化器系の疾患	1,111	9.3	1,111	1,024	16	16	27	28
			(100.0)	(92.2)	(1.4)	(1.4)	(2.4)	(2.5)
皮膚・皮下組織の疾患	355	3.0	355	338	-	4	10	3
			(100.0)	(95.2)	(-)	(1.1)	(2.8)	(0.8)
筋骨格系・結合組織の疾患	1,565	13.1	1,565	1,519	1	15	24	6
			(100.0)	(97.1)	(0.1)	(1.0)	(1.5)	(0.4)
腎尿路生殖器系の疾患	253	2.1	253	175	8	23	37	10
			(100.0)	(69.2)	(3.2)	(9.1)	(14.6)	(4.0)
損傷・中毒	226	1.9	226	193	11	13	4	5
			(100.0)	(85.4)	(4.9)	(5.8)	(1.8)	(2.2)
その他	1,233	10.3	1,233	1,165	12	20	21	15
			(100.0)	(94.5)	(1.0)	(1.6)	(1.7)	(1.2)

- (注) 1 既決拘禁者について調査したものである。
 2 「未治出所」とは、治癒に至らないうちに満期、仮釈放又は刑の執行停止により出所した者をいう。
 3 「後遺」とは、12月31日現在において未治癒の者をいう。
 4 「その他」とは、他の矯正施設に移送になった者等をいう。
 5 ()内の数字は、各病名に対する転帰事由別構成比である。
 6 87表（「17-00-87」）及び88表（「17-00-88」）参照